

下士官兵二出口ダ

- 一、今カラデモ遅クナイカラ原隊へ歸シ
- 二、抵抗スル者ハ全部逆賊テアルカラ射殺スル
- 三、才前達ノ父母兄弟ハ國賊トナルノデ皆泣イ
テオルゾ

二月二十九日

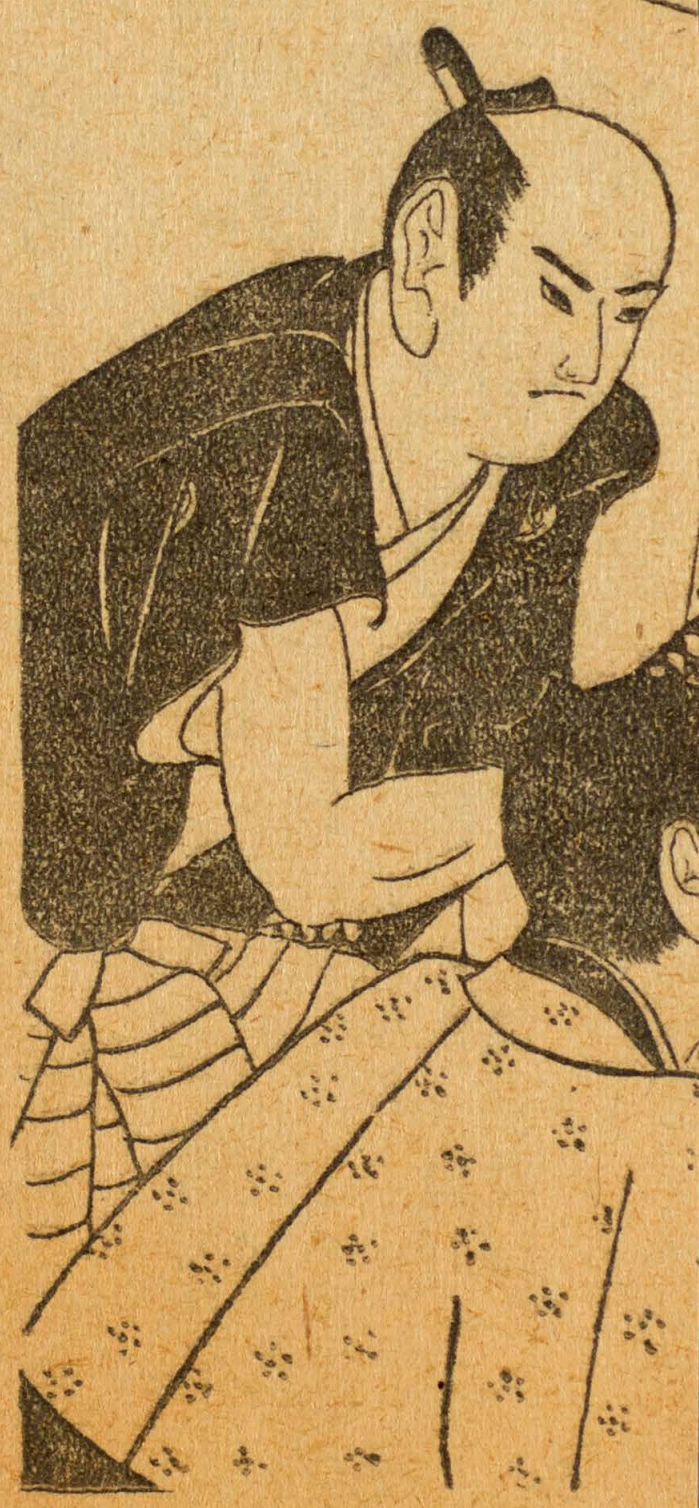
戒嚴司令部

足を奪はれた市民が黒アリのやうに右往左往して何か新しい情報は？と聞き耳を立て、歩いてゐる

× 圓タクはこの邊で一まうけしなくてはとえらくボル、惠比須、荻窪等いづれも一圓で遊々客を乗せる有様

× 踏み切番もけふはあくびしてゐる幾本かのレールは給のやうにのび時々通過するのは貨物列車ばかり

× 赤塗の郵便自動車は戒厳令下の街の勇者だ、交通禁止區域も自由に



居た小山田は、全然敵意といふものが消え失せたから、とびしさつて駕籠脇を空け師弟の對面に、武夫のなさけといふところを見せた。

三人が駕籠の脇にうづくまり、

に據りて學徒の説を異端と思ひ込みその口を指せんとするも政道に忠なるの餘りであつて、必ずしも暴とは申されませぬ。説の當否は後世の批判にまかせ、私はたゞ當代の掟に従へ